エコアクション21

環境活動レポート

2018年度版

（ 対象期間:2018年 4月 1日 ～ 2019年 3月31日 ）

2020年 3月17日 発行

青 森 三 菱 自 動 車 販 売 株 式 会 社
青 森 ス ズ キ 自 動 車 販 売 株 式 会 社

住　　所　青森県青森市石江四丁目1－2
T　E　L　017 － 781 － 3311（代表）
F　A　X　017 － 782 － 0699（代表）

① 組織の概要

1.事業所名

青森三菱自動車販売株式会社 ・ 青森スズキ自動車販売株式会社

代表取締役社長　佐々木 聡

E－Mail：info@aoji.co.jp

ＵＲＬ：https://www.aomori-mitsubishi-motor-sales.com/

2.所在地

店舗名	住所	電話番号
青森三菱自動車販売(株) 本社・青森西バイパス店	青森市石江四丁目１－２	017-781-3313
青森三菱自動車販売(株) 青森東店	青森市浪打二丁目１１－１７	017-781-2188
青森三菱自動車販売(株) 問屋町ボディー工場	青森市第二問屋町３丁目２－８	017-739-4361
青森三菱自動車販売(株) むつ店	むつ市大平町３－３	0175-24-1257
青森三菱自動車販売(株) 弘前店	弘前市大字高崎一丁目８－３	0172-28-3401
青森三菱自動車販売(株) 五所川原店	五所川原市大字姥萢字船橋２４７－１	0173-35-2744
青森三菱自動車販売(株) 八戸下長店	八戸市下長三丁目１９－５	0178-28-3911
青森三菱自動車販売(株) 中古車部	八戸市大字長苗代字前田２９－２	0178-27-1201
青森三菱自動車販売(株) 十和田店	十和田市大字三本木字北平１９５	0176-23-4121
青森スズキ自動車販売(株) スズキアリーナ合浦公園	青森市浪打二丁目１１－１３	017-763-5015
青森スズキ自動車販売(株) スズキアリーナ弘前高崎	弘前市大字高崎一丁目７－１	0172-55-5588
青森スズキ自動車販売(株) スズキアリーナ八戸駅通	八戸市大字長苗代字前田２９－２	0178-27-0111

3.環境管理責任者及び連絡先

常務取締役営業本部長　佐藤 一郎　　TEL：017－781－3314

4.事業の概要

新車・部品・用品の販売及び中古車の販売

自動車の車検・点検及び一般整備

保険代理業務・車のレンタル事業

5.事業の規模

活動規模		2016年度（基準） 4 ～ 3月	2018年度（実績） 4月 ～ 3月
売上高（千円）	新車	2,307,928	3,102,749
	中古車	867,329	1,002,834
	サービス（整備）	1,137,093	1,053,661
	その他	0	0
	合計	4,312,351	5,159,244
取扱台数（台）	新車	1,459	1,706
	中古車	1,862	2,106
	サービス（整備）	59,891	49,014
	合計	63,212	52,826
期末従業員数（人）パート含む		151	161
延床面積（㎡）		9, 764. 1	9, 764. 1
原単位二酸化炭素排出量（kg-CO_2 ／ 千円）		224.3kg-co_2	162.73kg-co_2
原単位廃棄物排出量（除 有価物）（kg ／ 千円）		12.02kg	20.00kg
原単位総排水量又は水使用量（m_3 ／ 千円）		1.30m_3	1.38m_3
原単位特定化学物質使用量（kg ／ 千円）		0.57kg	0.42kg
原単位グリーン購入(中古部品)の促進（円 ／ 千円）		2,794.05千円	1,357.69千円

6.環境負荷の推移

2016年度を基準とした環境負荷は下記のとおり。

No	環境方針	管理指標		2017年度 実績	2018年度 実績	備考
1	エネルギーの効率的使用	電力使用量	実数	850,575.0	814,230.0	単位 Kwh
			原単位	181.20	157.82	単位 Kwh／売上 千円
		化石燃料使用量	実数	202,268.3	185,609.6	単位 L
			原単位	43.10	35.98	単位 L ／売上 千円
2	資源の効率的利用	水使用量	実数	6,192.0	7,133.0	単位 m^3
			原単位	1.32	1.38	単位 m^3 ／売上 千円
3	廃棄物の排出抑制と適正処理	一般廃棄物排出量	実数	19,495.0	20,268.4	単位 Kg
		産業廃棄物排出量	実数	39,016.0	82,901.0	単位 Kg
		廃棄物排出量合計（特別管理を含む）	実数	58,511.0	103,169.4	単位 Kg／
			原単位	12.49	20.00	単位 kg／売上 千円
4	温室効果ガスの排出抑制	二酸化炭素排出量	実数	962,212.4	839,570.2	単位 Kg－CO_2
			原単位	204.93	162.73	単位 Kg－CO_2／売上 千円
5	地球環境の保全	PRTR法特定化学物質使用量	実数	2,291.2	2,178.4	単位 Kg／
			原単位	0.49	0.42	単位 kg／売上 千円
6	地球環境の保全	グリーン購入（中古部品）の促進	実数	9,671.7	7,004.6	単位 千円
			原単位	2,059.84	1,357.69	単位 kg／売上 千円

注1:基準は2018年4月 ～ 2019年3月の数量

注2:廃棄物排出量は有価物を除いた排出量

② 取組の対象範囲

1.認証・登録の対象組織範囲（全社・全従業員）

青森三菱自動車販売株式会社　下記9店舗

事業所	所在地	30.4.1時点 人員(人)	延床面積（㎡）
青森三菱自動車販売(株) 本社・青森西バイパス店	青森市石江四丁目1－2	45人	2,478.2
青森三菱自動車販売(株) 青森東店	青森市浪打二丁目11－17	15人	592.9
青森三菱自動車販売(株) 問屋町ボディー工場	青森市第二問屋町三丁目2－8	6人	420.4
青森三菱自動車販売(株) むつ店	むつ市大平町3－3	8人	865.8
青森三菱自動車販売(株) 弘前店	弘前市大字高崎一丁目8－3	14人	1,147.9
青森三菱自動車販売(株) 五所川原店	五所川原市大字姥萢字船橋247－1	8人	834.1
青森三菱自動車販売(株) 八戸下長店	八戸市下長三丁目19－5	20人	1,117.0
青森三菱自動車販売(株) 中古車部	八戸市大字長苗代字前田29－2	10人	663.0
青森三菱自自動車販売(株) 十和田店	十和田市大字三本木字北平195	10人	531.4
計		136人	8,650.7

青森スズキ自動車販売株式会社　下記3店舗

青森スズキ自動車販売(株) スズキアリーナ合浦公園	青森市浪打二丁目11－13	5人	434.2
青森スズキ自動車販売(株) スズキアリーナ弘前高崎	弘前市大字高崎一丁目7－1	7人	借地の為 無記載
青森スズキ自動車販売(株) スズキアリーナ八戸駅通	八戸市大字長苗代字前田29－2	13人	679.3

※取組に際して、スズキアリーナ弘前高崎は工場を弘前店と併用している為、
弘前店と取組データは合算して処理を行っている。

合計		161人	9,764.1

2.認証・登録の対象活動範囲(全活動)

新車・中古車・部品・付属品(アクセサリー)の販売

自動車の車検・点検及び一般整備

保険代理業務・車のレンタル事業

③ 環境経営方針

青森三菱自動車販売株式会社及び青森スズキ自動車販売株式会社は、それぞれ
環境経営方針を策定し、企業経営に当たって環境への取組を推進しております。
グループの代表である青森三菱自動車販売株式会社の環境方針は、次のとおりです。

青森三菱自動車販売株式会社　環境経営方針

基本理念

青森三菱自動車販売（株）は、自動車の販売・サービス(整備)及び関連する事業活動を通じて、
地球環境の保全が最重要課題であることを認識し、また、よき企業市民として、地域への
環境保全活動に自主的かつ積極的に取り組み、次世代に住みよい社会を残せるように努力します。

基本方針

1.当社は、自動車の販売、サービス(整備)を通じてエネルギーの使用や廃棄物の排出な
どを認識し、お客様のエコライフをサポートする様な省エネ車の販売、エコ整備、エコドラ
イブ等の取組を推奨し、生態系の保全等、環境保全に努めます。

2.環境に関する法令・規則・協定等を遵守し、環境保全レベルの向上に努めます。

3.当社の事業活動が環境に与える影響を正しく認識し、環境目標を定めて、全社員による
継続的な環境負荷低減に取組みます。

4.電力使用量・廃棄物総量・温室効果ガス及び水使用量の削減並びにリサイクルの促進
グリーン購入（中古部品の活用）の促進に努めます。

5.定期的な環境監査により活動を認識し、環境管理の維持向上を図ります。

6.環境経営方針を全社員に周知するとともに一般に公開し、地域社会に貢献します。

2019年　7月　1日

青森三菱自動車販売株式会社

代表取締役社長　佐々木聡

④ 環境目標

1. 次期取組 単年度環境目標及び中期目標 その1								⇒ 中期目標
No	環境方針	取組項目	主な実施事項	2016年度実績（原単位）	目標（原単位）			
					2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1	エネルギーの効率的利用	電力使用量の削減	不要照明の消灯 事務所の適正空調温度の励行 高効率蛍光灯、LED等の省エネタイプへの順次切換え	199.44kwh	〈2016年度比〉 △1.0% 197.45Kwh	〈2016年度比〉 △1.5% 196.45Kwh	環境目標更新年度 5カ年計画を予定	－
		化石燃料使用量の削減	社有車の省エネ運転 点検整備の励行 代車、レンタカーの燃料管理	46.66ℓ	〈2016年度比〉 △1.0% 46.19ℓ	〈2016年度比〉 △1.5% 45.96ℓ	環境目標更新年度 5カ年計画を予定	－
2	資源の効率的利用	水使用量の削減	車両洗車時の無駄水の防止 (ストップノズル取付け) 漏水の定期点検 (1回/2ヶ月)	1.30m^3	〈2016年度比〉 △1.0% 1.287m^3	〈2016年度比〉 △1.5% 1.281m^3	環境目標更新年度 5カ年計画を予定	－
3	廃棄物排出抑制と適正処理	一般廃棄物 産業廃棄物 排出量の削減	廃棄物の分別管理と適正処理	12.02kg	〈2016年度比〉 △1.0% 11.90kg	〈2016年度比〉 △1.5% 11.84kg	環境目標更新年度 5カ年計画を予定	－
4	温室効果ガスの排出抑制	二酸化炭素 排出量の削減	電気使用量の削減 化石燃料使用量の削減 お客様へのエコ整備の推進と エコドライブの推奨を図る	224.32kg-co_2	〈2016年度比〉 △1.0% 222.08kg-CO_2	〈2016年度比〉 △1.5% 220.96kg-CO_2	環境目標更新年度 5カ年計画を予定	－
5	地球環境の保全	PRTR法特定 化学物質使用量 の削減	環境負荷が懸念される 化学物質の代替物への 切り替え	0.04kg	〈2016年度比〉 △1.0% 0.0396kg	〈2016年度比〉 △1.5% 0.0394kg	環境目標更新年度 5カ年計画を予定	－
6	地球環境の保全	グリーン購入 (中古部品)の促進	リユース部品等の提案及び 供給者の確保、事務用品など 環境配慮物品等の購入の推進	2.79千円	〈2016年度比〉 +2.0% 2.85千円	〈2016年度比〉 +3.0% 2.87千円	環境目標更新年度 5カ年計画を予定	－

2016年度 ～ 2019年度の電力の温室効果ガス排出計数は事業者からの排出係数算定方法ガイドライン（試案ver1.6）の一般電力事業者（9電力会社及び沖縄電力）の排出係数 0.547CO_2-kg/kwh を使用。

2. 次期取組 単年度環境目標及び中期目標 その2			
No.	環境方針	取組項目	目標（2018年度 ～ 2020年度まで）
1	自動車販売・サービス(整備)を通じて環境保全に配慮する。	環境に配慮した自動車の販売 サービス(整備)の提供等	取組方針及び数値目標等に基づき、充電インフラ整備・電気自動車及びクリーンエネルギー車の販売促進等の環境に配慮した事業活動を展開することを目標とする。外部に対しての取組として、引続きお客様へのエコ整備の推進・エコドライブの推奨を図っていく。 2019年度は電気自動車・クリーンエネルギー車販売 240台目標
2	環境管理の維持向上を図る。	環境法令の遵守	毎年1回以上、定期的に法令一覧表の見直しを実施し、遵守状況のチェックを行うことを目標とする。
		環境監査の実施	毎年1回以上、内部監査を行うことを目標とする。
		社員教育の実施	全従業員が年に1回以上、延べ2時間以上の研修会や社内教育を受けることを目標とする。
3	地域社会への貢献	地域の環境保全活動への参加	全従業員が会社や家庭などで年に1回以上、地域や町会などの活動に参加することを目標とする。
		店舗周辺の清掃活動の実施	清掃活動や美化活動等を年2回以上実施する。

※販売目標内訳

アウトランダーPHEV		80 台	販売目標 240 台
デリカD:5	（但し、クリーンディーゼル車のみ）	85 台	
エクリプスクロス	（但し、クリーンディーゼル車のみ）	70 台	
パジェロ	（ 2019年 8月にて国内向け生産終了 ）	5 台	

⑤ 2019年度 環境活動計画

Ⅰ.目標を達成するための取組み

1. 電力使用量の削減

（1）事務所の空調温度適正化の励行

・冷房28℃、暖房20℃ 尚、ショールームは冷房26℃、暖房22℃が目安であり、室内に温度計を設置し目安温度は温度計を基準とする。

・クールビス（7 ～ 8月）による夏場の冷房温度設定の厳守。

・ブラインド、遮光フィルム等により太陽光の遮断。

（2）不要照明の消灯

・昼休み、時間外の部分消灯を徹底する。

・使用時以外の消灯（会議室、打合せ室、更衣室、給湯室、トイレ等）

・サービス工場の部分照明の実施。

（3）夜間・休日等はOA機器の主電源を切って節電に努める。

（4）広告塔の点灯・消灯時間の励行

・看板、展示場、駐車場の照明は防犯上必要なもの以外は消灯。

（5）パソコンは使用していない時は電源が切れる様、電源の設定をする。

（6）空調機のフィルター清掃・交換等適正管理（シーズンイン 1回 ／ 月実施）

（7）高効率蛍光灯・VE型魔法瓶採用等の省エネタイプへの順次切換え。

2. 化石燃料使用量の削減

（1）社有車の省エネ運転、点検整備の励行を図る。

・社員の車の省エネ運転、定期点検整備の促進を図る。

・社用車について、低燃費車への切り換えに取り組む。

・青森県一斉スマートムーブ通勤月間への参加

（2）ウォームビズ等による冬場の暖房設定の遵守。（お客様用のブランケット準備）

・ボイラーや燃焼機器の空気比（空気過剰係数）を低く抑えて運転

（3）代車、レンタカーの燃料管理を徹底する。

・満タン返しの促進（短期間・短距離使用の場合の満タン給油は、トラブルにならない様、十分な説明が必要）

3. 水使用量の削減

（1）水道の蛇口は全開でにしないで、水圧を上げない様に心掛ける。（節水の意識付け）

（2）車両洗車時の無駄水の防止。（ストップノズルの取り付け ○洗車を行う全拠点設置）

（3）漏水の定期点検（2ケ月毎）

4. 廃棄物排出量の削減

（1）紙使用量の削減

・プリンターで印刷を行う場合は可能であれば、両面印刷、片面複数印刷（割付）などの機能を活用する。

・裏面の利用、両面コピー、電子メール活用によるペーパーレス

・コピー終了時には設定の初期化（リセット）を行い、次に使用する者のミスコピーを防止する。

・社内間の事務連絡などに封筒を使用する場合は、使用済みの封筒を再使用する。

・公文書以外の用途について、裏面が利用可能な用紙は裏面利用する。

（２）廃棄物の分別管理と適正処理

・使い捨て製品を避け、リターナブル容器に入った製品を優先的に購入する。

・再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入する。

（３）リサイクル業者との新規委託契約（適正な継続委託契約）

5. 二酸化炭素排出量の削減

（１）電気使用量の削減・化石燃料使用量の削減

（２）お客様へのエコ整備の推進・エコドライブの推奨を図っていく。

（３）電気自動車（I-MiVE・MINICAVE-MiVE）・PHEV車・省エネ車の普及に努める。

6. PRTR法特定化学物質使用量の削減

（１）環境負荷が懸念される化学物質の代替物への切り替え。

（２）化学物質を適正に管理し、定期的に確認する。

7. グリーン購入の促進

（１）ユーザーへ対して、リユース部品等の提案を積極的に推進する。

（２）良質な供給業者の確保に努める。

（３）環境ラベル認定等製品を優先的に購入し、使用する。

（４）社用車について低排出ガス認定車など低公害車への切り替えに取り組む。

8. 環境負荷実績の把握

（１）基礎データー入力表に基づき、毎月、環境負荷実績を早期に集計をする。

（２）有害性のPRTR法特定化学物質についても、記録・管理する。

（３）上記1～7の取組み項目について、記録・管理する。

9. 環境に配慮した自動車の販売・サービス（整備）の提供等

（１）電気自動車・省エネ車の販売促進を諮る。

（２）お客様に、車検・点検等の入庫時にエコドライブ推奨ポイントをチラシ等で案内する。

（３）急速充電器等、充電インフラの更なる整備に努める。

10. 地域社会への貢献

（１）店舗周辺の清掃もしくは美化運動を年1回以上実施する。

（２）地域の環境保全活動へ積極的に参加する。地域の活動がない場合は青森県主催の
スマートムーブ通勤月間へ参加する。

11. その他　環境管理の維持向上の為に

（１）定期的に法令一覧表の見直し、遵守状況のチェックを行う。

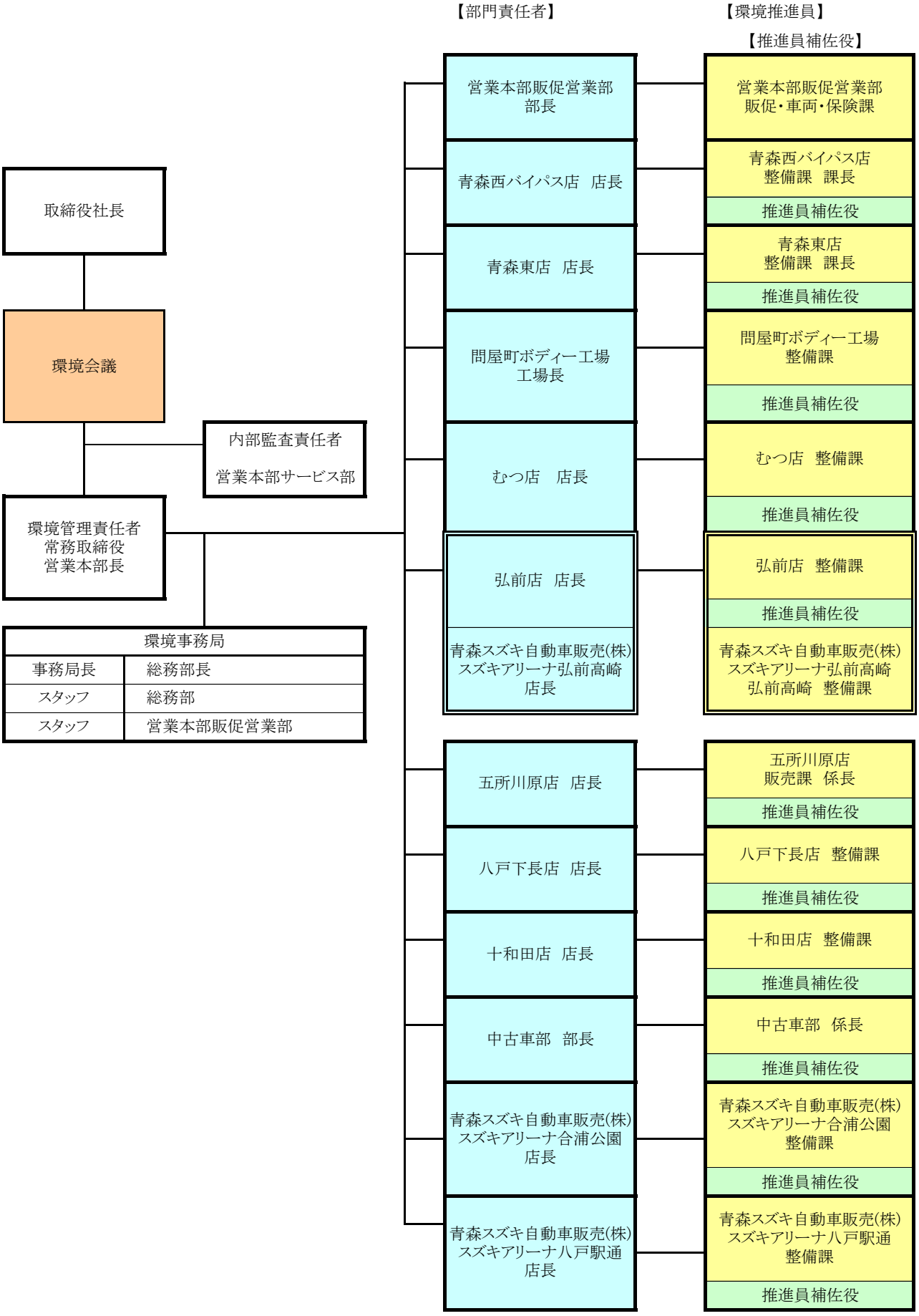
（２）年一回以上の内部監査を実施する。

（３）環境問題の現状やエコアクション21における環境への取組の、意義と重要性等、年一回以上の
社員教育を実施する。

（４）環境上の事故及び緊急事態を想定し、その対応策を定め、年一回以上の緊急事態対応の訓練を
定期的に実施する。

Ⅱ.目標を達成するための実施体制

環境マネジメント実施体制組織図



主な推進者の役割、責任及び権限

EA21の役割	社内職制	責任と権限
代表者	社長	1. 環境管理責任者・環境監査責任者の任命 2. 環境方針の制定 3. 環境マネジメントシステムの実施および管理に必要な資源の準備 4. 環境マネジメントシステムの評価、見直しの実施 5. 内部環境監査の実施の指示
環境管理 責任者	役員	1. 環境マネジメントシステムの確立及び実施、維持を推進 2. 環境負荷、環境取組状況の把握及び評価 3. 環境目標・環境活動計画の策定 4. 環境経営マニュアルの制定 5. 緊急事態対応手順の策定 6. 取組状況の評価及び環境会議（社長）への報告 7. 問題が発生した場合の是正処置等の指示 8. 環境活動レポートの承認
環境事務局	部長	1. 環境管理責任者の補佐 2. 環境関連法規等の取りまとめ及び最新情報の収集 3. 環境方針の立案 4. 環境目標、環境活動計画の立案 5. 環境経営マニュアルの立案 6. 緊急事態対応手順の立案 7. 取組手順書（運用手順、運用基準、監視・測定基準、記録）の作成 8. 各部門（店舗）の取組状況の取りまとめ 9. 教育・訓練計画の作成 10. 文書・記録類の管理 11. 環境活動レポートの作成
環境責任者	各部門長 及び 店長	1. 部門（店舗）の環境マネジメントシステムの確立及び実施、維持を推進 2. 部門（店舗）の環境活動計画の策定 3. 教育・訓練の実施 4. 外部からの苦情等への対応及び環境管理責任者への報告 5. 緊急事態対応の訓練実施 6. 部門（店舗）の取組状況の評価及び環境管理責任者への報告 7. 問題が発生した場合の是正処置等の実施
環境推進員	各部門課長	1. 部門（店舗）の環境活動計画の立案及び推進 2. 部門（店舗）の取組状況の把握及び環境責任者への報告
環境推進員補佐役	各部門員	1. 実際の活動・取組みにおいて環境推進員を補佐する。 2. 文書・記録において環境推進員を補佐する。
内部監査責任者	営業本部 サービス部	1. 環境マメジメントシステムがガイドラインの要求事項及び組織が定めたルールに適合しているかをチェックする。 2.環境目標が達成状況と、環境活動計画が適切に実施されているのをチェックする。

⑥ 環境目標の実績

1．環境目標の実績及び評価　その1

環境方針	取組項目	単位	削減目標	2016年度原単位実績	2018年度削減目標	2018年度原単位実績	削減実績数量原単位	評価
エネルギーの効率的利用	使用量の削減 電力	Kwh	1.0%	199.400	197.400	157.820	41.580	◎
	使用量の削減 化石燃料	Kg	1.0%	36.783	36.415	28.269	8.513	○
資源の効率的利用	使用量の削減 水資源	L	1.0%	1.303	1.290	1.654	-0.352	×
廃棄物排出抑制と適正処理	排出量の削減 一般・産業廃棄物	Kg	1.0%	12.110	11.988	19.997	-7.887	×
温室効果ガスの排出抑制	排出量の削減 二酸化炭素	Kg － CO_2	1.0%	200.156	198.154	162.731	37.424	◎
地球環境の保全	使用量の削減 PRTR法特定化学物質	Kg	1.0%	0.575	0.569	0.422	0.152	○
地球環境の保全	取組項目	単位	増加目標	2016年度原単位実績	2018年度増加目標	2018年度原単位実績	増加実績数量原単位	評価
	グリーン購入促進 中古部品	千円	2.0%	2,794	2,850	1,358	1,436	×

廃棄物は総排出量より有価物を差引いた数量にて算出

削減実績数量 ： 2016年度原単位実績 － 2018年度原単位実績 ／ 算出値が － の場合は増加の為 目標未達成

増加実績数量 ： 2016年度原単位実績 － 2018年度原単位実績 ／ 算出値が ＋ の場合は減少の為 目標未達成

1．電力使用量削減目標実績

・以前に事務所や工場、屋外照明のLED化に取組んだ成果が継続して反映されている。本年度も原単位使用量を削減することができた。今後も不要な照明の消灯等、節電を全店舗で継続していく。

・弘前店とむつ店の暖房設備がボイラーからエアコンへと切替り、使用量が増加しているが、原単位目標範囲内に抑えることができた。

2．化石燃料使用量削減目標実績

・基準年度と比較した結果、原単位を大幅に削減することができた。しかしガソリンに関しては原単位使用量が増加しており、効率よく運用できるよう、社有車等を使用する際、エコドライブを実施する等の意識向上を図りたい。
尚、他項目はいずれも原単位削減目標を達成している。

3. 水使用量削減目標実績

・基準年度に対し、使用量が増加している。設備の破損により漏水が一度発生しているが、漏水分を差し引いても大幅に増加しており、各店で漏水・設備の日々における確認と定期点検を2ケ月枚の継続を実施する。

4．廃棄物排出量削減目標実績

・基準年度に対し、大幅に増加する運びとなったが、要因は不定期に処理していた汚泥（ 産業廃棄物の ５ ～ ７ 割を占める ）を定期的に処理する方針となったためである。尚、基準年度に対する産業廃棄物の増加はほとんどが汚泥である。

5．二酸化炭素排出量削減目標実績

・基準年度に対し、全体で原単位削減目標を達成できているが、ガソリンに関する二酸化炭素排出量のみが増加している。
尚、他項目は全て削減目標を達成している。

6．PRTR法特定化学物質使用量削減目標実績

・基準年度比で全体原単位削減目標を達成することができているが、ノルマンヘキサンとトリメチルベンゼンが増加する結果となっている。要因は上記化学物質含む製品（ 内容量16Kg ）を基準年度より1個多く購入したことによるものである。

・主に発生するキシレン・トルエン・エチレングリコールは基準年度に対し、原単位と実数をともに削減目標を達成している。

7．中古部品の購入促進目標実績

・本年度の中古部品の購入数量は販売促進に努めたが、基準年度と比較して、大幅な減少となった。

・お客様に対し積極的に推進し、納得したうえで使っていただけるよう提案を継続していきたい。

⑥ 環境目標の実績

2. 2018年度 環境目標の実績及び評価 その2

No.	環境方針	取組項目	目標(2016年 ～ 2019年度まで)	実績	評価
1	自動車販売・サービス(整備)を通じて環境保全に配慮する。	環境に配慮した自動車の販売サービス(整備)の提供等	取組方針及び数値目標等に基づき、充電インフラ整備・電気自動車及びクリーンエネルギー車の販売促進等の環境に配慮した事業活動を展開することを目標とする。外部に対しての取組として、引続きお客様へのエコ整備の推進・エコドライブの推奨を図っていく。2018年度は電気自動車・クリーンエネルギー車販売 300台目標	販売目標設定300台に対して実績は177台達成率は59%となった。	△
2	環境管理の維持向上を図る	環境法令の遵守	毎年 1回以上定期的に法令一覧表の見直し、遵守状況のチェックを行うことを目標とする。	各店舗 隔月実施	○
		環境監査の実施	毎年 1回以上内部監査を行うことを目標とする	各店舗 11月 実施済	○
		社員教育の実施	全従業員が年に1回以上 延べ2時間以上の研修会や社内教育を受けることを目標とする。	各店舗 随時	○
3	地域社会への貢献	地域の環境保全活動への参加	全従業員が会社や家庭などで年に1回以上 地域や町会等の活動に参加することを目標とする。	各店舗 随時	○
		店舗周辺の清掃活動の実施	清掃活動・美化活動等を年2回以上実施すること。	各店舗 随時	○

1－1:環境に配慮した自動車の販売・サービス（ 整備 ）の提供等

・ 本年度もクリーンエネルギー車の販売促進等、環境に配慮した事業活動を展開することができた。

・ 環境に配慮した自動車の販売数は目標を達成することができなかったが、アウトランダーPHEVを67台、クリーンディーゼル車としてデリカD:5を98台 パジェロを12台 合計177台を普及することができた。

2－1:環境法令の遵守

・ 本年度、法令に違反する事案は発生していないが、排水の水質測定において、再検査を行った店舗がある為、定期的に排水溝・浄化槽の保守・点検を実施するよう周知する。

・ 廃棄物処理法の改訂により、水銀に該当する対応が必要となるので、拠点に水銀含有物が蛍光管以外に存在しないか随時確認を実施し、対応を行う。

2－2:内部監査の実施

・本年度は予定通り、11月に内部監査を実施した。掲示物状態や資料が見える場所に保管されているか等の監査を実施した。実施の結果、法令違反店舗は確認されなかったが、内部監査の時点で緊急事態の訓練等が実施されていないケースもある為、なるべく早いタイミングで実施をするよう周知したい。

2－3:社員教育の実施

・本年度は各拠点で随時地球温暖化に関するDVDを閲覧し、現状と今後どうするべきかを随時確認を行っている。現段階では全ての拠点で実施されている。

3－1:地域社会への貢献

・本年度は地域の環境保全活動として、本社・青森西バイパス店で地域で実施されている新城川の清掃に参加した。

・青森県で10月に実施されているスマートムーブ通勤月間には徒歩（ 又はランニング ）や自転車通勤で5名参加している。

・問屋町ボディー工場では4月 ～ 9月ごろまで実施されている地域組合主催の清掃活動に参加している。

3－2:地域社会への貢献

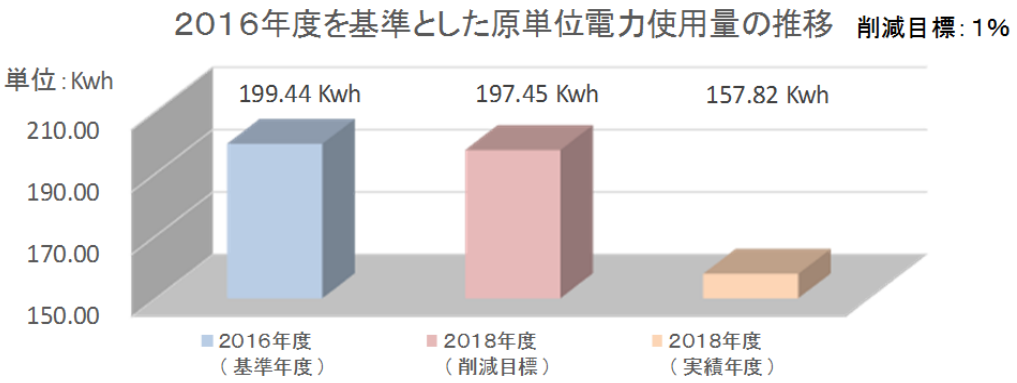
・毎年実施を行っている店舗周辺の清掃を本年度も実施した。

・美化活動として、店舗の周辺に花壇を置く等の取組を実施している。

⑦ 2018年度 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

1.電力使用量の削減

電力使用量	単位	2016年度（基準年度）	2018年度（削減目標）	2018年度（実績年度）	削減目標達成率	目標達成状況
実　　数	Kwh	860,074.00	851,473.00	814,230.00	533.01　%	達　　成
原　単　位	Kwh	199.40	197.40	157.80	2,080.00　%	達　　成



○ 評価

1. 本年度の使用電力は該当12拠点に対し、 実数で9店舗 原単位で8店舗 削減目標を達成することができた。
   実数では 青森東店とスズキアリーナ合浦公園が全ての月で削減目標を達成している。
2. むつ店と弘前店は冬期間における暖房をボイラーからエアコンに変更しており、冬期間で実数は両店舗増加している。
   しかし、原単位では両店舗最終削減目標を達成できており、これは年間を通して意識して両店舗が節電に取組んだ結果である。
3. 本社・西バイパス店において、デマンド監視装置の活用により、冬のルーフヒーター・パネルヒーターの節電に本年度も効果を上げている。

○ 次年度の取組内容

- 照明をLEDに交換した店舗においても、不要照明の消灯等を継続し、節電に努める。
- 窓側の照明は、天気の良い日の日中は消灯し節電に努める。
- ショールームの照明は午後7時以降は消灯し節電に努める。
- 看板、展示場、駐車場の照明は高い節電効果が見込まれるため、防犯上必要なもの以外はなるべく消灯し、継続して節電に努める。
- 全社的な取組としては、このまま継続する。

デマンド監視装置

非常用照明・事務所・屋外照明をLEDに交換

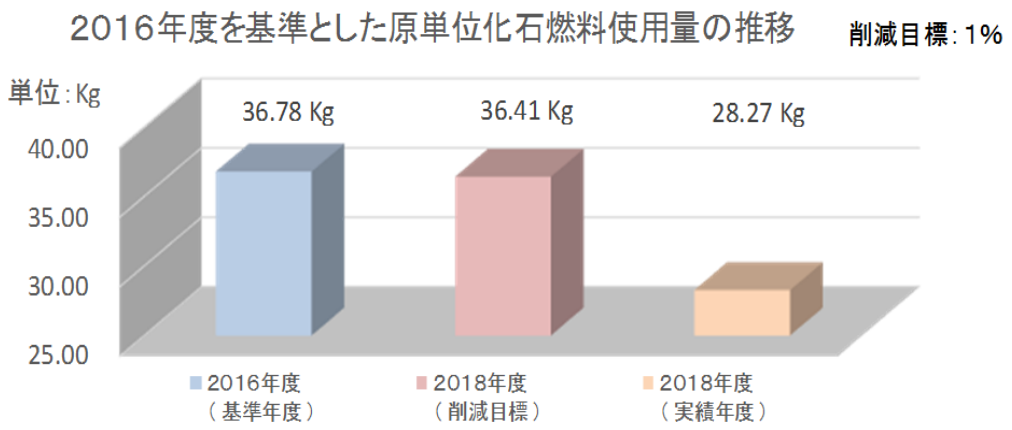
事務所・工場のLED化

節電推進ラベルの掲示

⑦ 2018年度 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

2 .化石燃料使用量の削減

化石燃料使用量	単位	2016年度（基準年度）	2018年度（削減目標）	2018年度（実績年度）	削減目標達成率	目標達成状況
実　　数	Kg	158,619.36	157,033.17	145,848.83	805.11　%	達　　成
原　単　位	Kg	36.78	36.41	28.27	2,314.46　%	達　　成



○ 評価

1. 全体使用量評価

・会社全体で化石燃料の使用量を掲げていた目標よりも多く削減することができた。中でも暖房等の社内活動に係る灯油・重油・都市ガス・LPGガスの4項目の実数を減らすことができていることは、社内で意識して消費量を抑える取組を行えた為である。また、本年度は基準年度よりも売上が増加しており、集計時に営業等の社外活動で影響 を受けやすいガソリン・軽油の増加が想定されていたが、軽油は原単位を 1,231.20% と達成できた。要因として社有車入替でPHEV車やクリーンディーゼル車が増加したことと、全社で無駄な使用を控え、効率よく運用できたことが上げられる。

2. 全店舗合計 化石燃料項目別使用量の内訳表 ※目標未達成の場合は 数値が － となる

ガソリン・軽油・灯油・重油はＬよりKg換算を行っている。 換算式は Kg ＝ Ｌ × g / cm^3　　単位：Kg

化石燃料区分	2016年度実数	2018年度実数削減目標	2018年度実数	2016年度比実数目標達成率	2016年度原単位	2018年度原単位削減目標	2018年度原単位	2016年度比原単位目標達成率
ガ ソ リ ン	60,661.41	60,054.80	61,349.84	-113.49%	14.07	13.93	11.89	1,546.66%
軽　　油	31,504.05	31,189.01	33,082.81	-501.13%	7.31	7.23	6.41	1,222.65%
灯　　油	47,648.95	47,172.46	37,656.84	2,097.03%	11.05	10.94	7.30	3,394.31%
重　　油	17,600.00	17,424.00	12,760.00	2,750.00%	4.08	4.04	2.47	3,940.10%
都 市 ガ ス	755.55	747.99	604.44	2,000.00%	0.18	0.17	0.12	3,313.21%
ＬＰＧガス	449.40	444.91	394.90	1,212.73%	0.10	0.10	0.08	2,655.17%
合　　計	158,619.36	157,033.17	145,848.83	805.11%	36.78	36.41	28.27	2,314.46%

※LNGガスの使用実績はありません。

○ 次年度の取組内容

・代車やレンタカーの満タン返し等、燃料管理の徹底を継続していく。

・短期間や短距離使用の場合、満タン給油依頼はトラブルにならない様、十分に配慮し、説明を行うこと。

・冬期間の暖房に係る、灯油・重油についてはもウォームビス等により削減を図る。

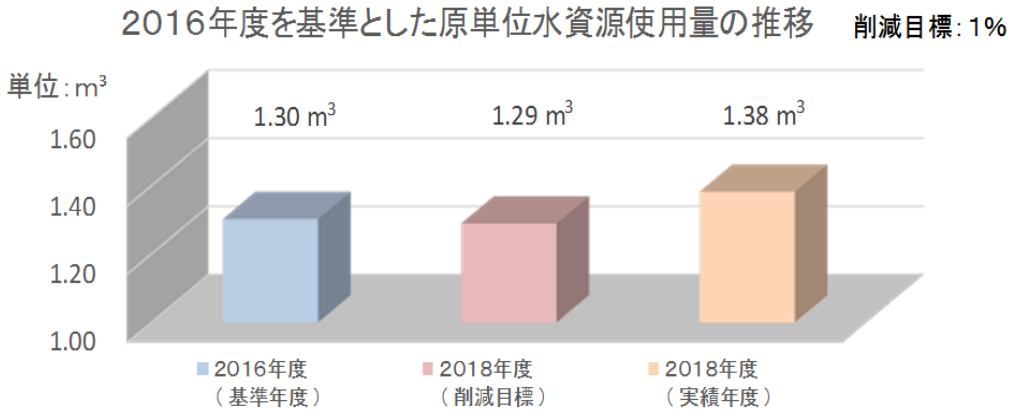
・引続き、社有車の省エネ車への切替、社員の車の省エネ運転、定期点検整備等の促進を図る。

・社有車の省エネ車への切換、省エネ運転・点検整備の取組継続

⑦ 2018年度 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

3 .水資源使用量の削減

水資源使用量	単位	2016年度（基準年度）	2018年度（削減目標）	2018年度（実績年度）	削減目標達成率	目標達成状況
実　　数	m^3	5,617.00	5,560.83	7,133.00	−2,698.95　%	未　達　成
原　単　位	m^3	1.30	1.29	1.38	−614.39　%	未　達　成



1. 全体使用量評価

・会社全体で原単位削減目標を達成することができなかった。十和田・八戸地区は減少傾向にあるが、青森・むつ・弘前地区は増加傾向であるため、次年度はすべての地区で削減目標を達成できるよう取組を進めていきたい。

・実数は売上の増加に伴い、店舗の稼働率が上昇した為使用量が増加したが、スズキアリーナ八戸駅通のみ売上が増加しているにも関わらず、全ての月で削減目標を達成しており、次年度はより多くの店舗が削減目標を達成できるよう、スズキアリーナ八戸駅通の取組活動を周知していきたい。

2. 各店漏水発生状況

・本年度の漏水は全社を通して　1店舗　1件　発生しており、洗車に使用するホースに取り付けていたストップノズルの破損が原因だった為、ストップノズルの交換を実施し、同様の事案が発生しても速やかに対応できるように予備を併せて購入した。

・対応の結果、翌月以降の使用量が従来の状態に戻っており、対応に不備はなかったが、漏水に対してはもう少し早い段階で対応できるように設備の確認等、周知を行っていく。

・青森西バイパス店・弘前店・八戸下長店の3店舗に、水使用量の削減が期待できる門型洗車機を設置している。

青森西バイパス店に設置した門型洗車機

○ 次年度の取組内容

・門型洗車機設置の3店舗について、正しい取扱等に注意し、効率的な運用の取組に努める。

・洗車用の蛇口にはストップノズルを必ず設置し、日常業務から設備の点検・維持と節水の意識向上に取り組んでいるが、本年度、1件の漏水事案があったため、概要と対応を各店に周知し、再度発生しても速やかに対応できるように努める。

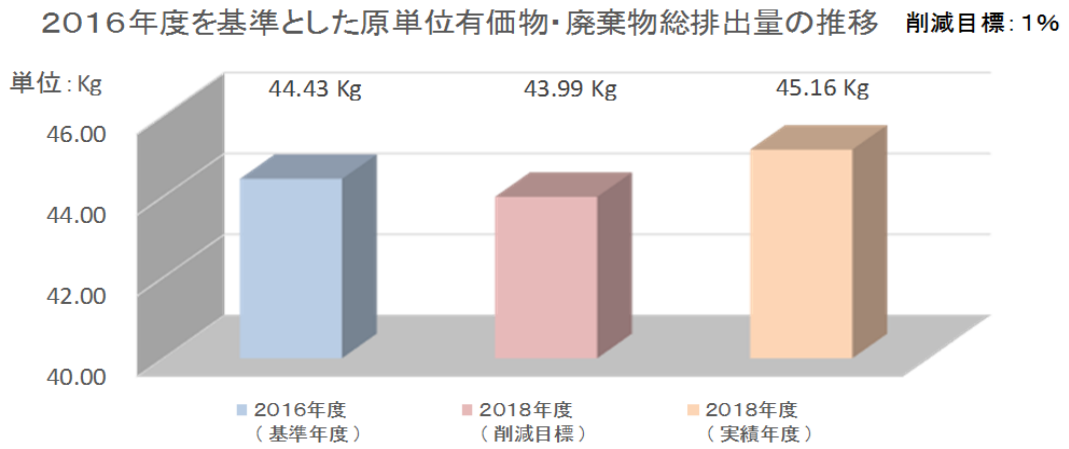
・継続して漏水の定期点検（2ケ月毎）を励行する。

・水洗トイレの水が流れたまま放置されていないか等、毎日確認するよう徹底して継続する。

⑦ 2018年度 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

4.廃棄物排出量の削減

廃棄物 排出内訳表	単位	2016年度 （基準年度）	2018年度 （削減目標）	2018年度 （実績年度）	削減目標 達成率	目標 達成状況
実　　数	Kg	191,609.70	189,693.60	232,974.40	-2,158.80　%	未　達　成
原　単　位	Kg	44.43	43.99	45.16	-162.91　%	未　達　成



各廃棄物の内訳は下記の通り　　単位：Kg

化石燃料区分	2016年度 実数	2018年度 実数削減目標	2018年度 実数	2016年度比 実数目標達成率	2016年度 原単位	2018年度 原単位削減目標	2018年度 原単位	2016年度比 原単位目標達成率
一般有価物	20,676.00	20,469.24	18,854.00	881.21%	4.79	4.75	3.65	2,378.08%
一般廃棄物	17,396.90	17,222.93	20,268.40	-1,650.58%	4.03	3.99	3.93	261.88%
一般特別管理	0.00	0.00	0.00	0.00%	0.00	0.00	0.00	0.00%
産業有価物	118,713.00	117,525.87	110,951.00	653.85%	27.53	27.25	21.51	2,188.03%
産業廃棄物	34,419.80	34,075.60	82,616.00	-14,002.46%	7.98	7.90	16.01	-10,062.42%
産業特別管理	404.00	399.96	285.00	2,945.54%	0.09	0.09	0.06	4,103.55%
合　　計	191,609.70	189,693.60	232,974.40	-2,158.80%	44.43	43.99	45.16	-162.91%

○ 評価

1. 全体廃棄量評価

・会社全体で、実数・原単位でいずれも目標を達成することができなかった。最大の要因は基準年度の実績集計の時点で汚泥処理は全店随時実施だったが、昨年度より全店毎年実施の方針となった為である。

尚、汚泥の割合は産業廃棄物の 5～7割 を占めており、上記実施状況を踏まえて次回の目標を算定したい。

・最終的に目標を達成することができなかった一方、一般有価・廃棄物と産業有価物・特別管理物は原単位の削減目標を達成できている為、他廃棄物の排出量増加見込みに対し、抑えることができている。

2. 処分期限が定められている廃棄物の取扱について

・低濃度PCB汚染廃電機機器を1台　2018年　6月に委託処分を行った。

○ 次年度の取組内容

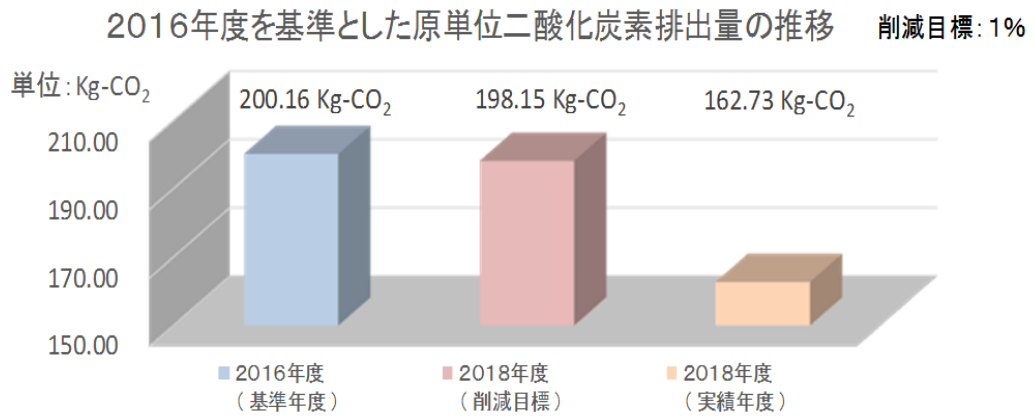
・汚泥処理は全店実施しており、今後も一定の廃棄量が想定される為、処理方法等の工夫に取り組む。

・今後も低年式車の入庫により、廃タイヤ・廃プラスチック、廃エレメントの増加が想定されており、他の廃棄物削減に取組み、再生可能物品は信頼できる業者に再利用の為回収して頂く等、全体の廃棄物削減へと取組を実施していく。

⑦ 2018年度 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

5. 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量	単位	2016年度（基準年度）	2018年度（削減目標）	2018年度（実績年度）	削減目標達成率	目標達成状況
実数	Kg-CO_2	863,139.65	854,508.25	839,570.23	273.07 %	達成
原単位	Kg-CO_2	200.16	198.15	162.73	1,869.76 %	達成



排出燃料等区分	単位	2016年度実数	2018年度実数削減目標	2018年度実数	2016年度比実数目標達成率	2016年度原単位	2018年度原単位削減目標	2018年度原単位	2016年度比原単位目標達成率
電力	Kg－CO2／Kwh	470,460.5	465,755.9	445,383.8	533.02%	109.1	108.0	86.3	2,087.05%
ガソリン	Kg－CO2／Kg	140,839.1	139,430.7	176,640.7	-2,542.02%	32.7	32.3	34.2	-483.23%
軽油	Kg－CO2／Kg	82,677.5	81,850.7	86,820.8	-501.14%	19.2	19.0	16.8	1,222.64%
灯油	Kg－CO2／Kg	118,736.7	117,549.4	93,838.9	2,096.90%	27.5	27.3	18.2	3,394.21%
A重油	Kg－CO2／Kg	47,483.0	47,008.2	34,425.2	2,750.00%	11.0	10.9	6.7	3,940.10%
都市ガス	Kg－CO2／Kg	1,593.8	1,577.8	1,275.4	1,997.62%	0.4	0.4	0.2	3,311.22%
LPGガス	Kg－CO2／Kg	1,349.1	1,335.6	1,185.5	1,212.73%	0.3	0.3	0.2	2,655.17%
排出量合計	Kg－CO2	863,139.7	854,508.3	839,570.2	273.07%	200.2	198.2	162.7	1,869.76%

※ LNGガスの使用実績はありません。

○ 評価

1. 全体排出量評価

・原単位と実数をともに達成することができたが、電力・灯油・重油・都市・LPGガスはいずれも原単位と実数削減目標を達成している。いずれも社内で使用量を抑えることができる項目であり、全店で設定温度等の調整に取組んだ成果と考えられる。次年度も継続できるよう努めたい。

・軽油は実数は増加したが、原単位比では目標を達成することができた。社有車を使用する社員がエコドライブ等に取組んだ結果、効率よく運用できた。ガソリンは実数・原単位でともに増加しており、次年度の取組課題である。

○ 次年度の取組内容

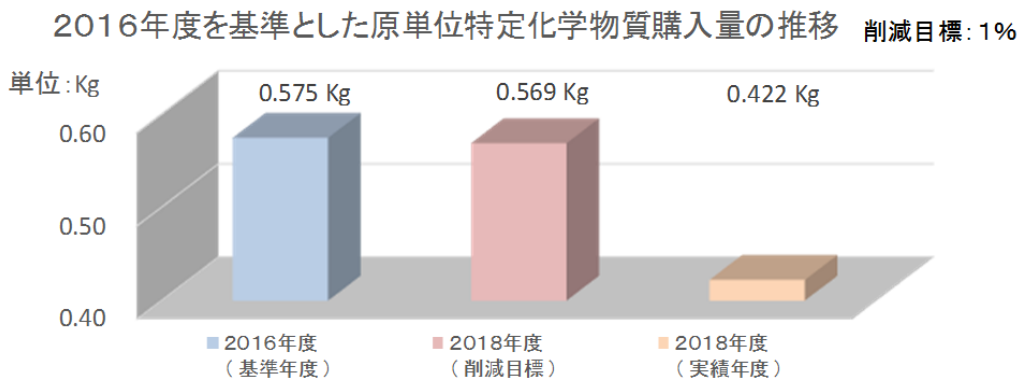
・引き続き、お客様への更なるエコ整備の推進と、エコ安全ドライブを、推奨していく事に努める。

・引き続き、アウトランダーPHEVやクリーンディーゼル車等の省エネ車の普及に努める。

⑦ 2018年度 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

6.PRTR法特定化学物質購入量の削減

特定化学物質購入料	単位	2016年度（基準年度）	2018年度（削減目標）	2018年度（実績年度）	削減目標達成率	目標達成状況
実　　数	Kg	2,477.755	2,452.978	2,178.408	1,208.138　%	達　　成
原　単　位	Kg	0.575	0.569	0.422	2,651.338　%	達　　成



化石燃料区分	2016年度実数	2018年度実数削減目標	2018年度実数	2016年度比実数目標達成率	2016年度原単位	2018年度原単位削減目標	2018年度原単位	2016年度比原単位目標達成率
キ　シ　レ　ン	77.71	76.94	52.22	3,280.49%	0.01802	0.01784	0.01012	4,383.51%
ト　ル　エ　ン	62.46	61.84	61.91	88.70%	0.01448	0.01434	0.01200	1,715.65%
エチレングリコール	2,282.52	2,259.69	2,012.99	1,180.85%	0.52930	0.52401	0.39017	2,628.53%
ノルマンヘキサン	21.12	20.91	28.16	-3,333.33%	0.00490	0.00485	0.00546	-1,144.64%
トリメチルベンゼン	0.53	0.52	0.70	-3,333.33%	0.00012	0.00012	0.00014	-1,144.64%
エチルベンゼン	33.46	33.13	22.44	3,294.69%	0.00776	0.00768	0.00435	4,395.38%
合　　計	2,477.80	2,453.02	2,178.41	1,208.28%	0.57458	0.56884	0.42224	2,651.45%

○ 評価

1. 全体排出量評価

・原単位と実数ともに目標を達成することができたが、詳細ではノルマンヘキサンとトリメチルベンゼン含有化学物質が増加の運びとなった。要因は内容量16Kgの化学物質を基準年度より1回多く購入したことにより生じており、他物質は基準年度より実数・原単位ともに削減できている為、引き続き使用状況の把握に努めたい。

2. 取扱に関する評価

・各店舗の整備工場において、化学物質を含有する使用製品は一定の製品を取り扱っている。

・「PRTR法特定化学物質調査表」により使用量を把握するとともに、保管状況等を定期的に確認・記録を行っている。

・板金塗装工場である問屋町ボディー工場においては、塗料・シンナー等、個々の製品の購入記録表を作成し、「 製品安全データーシート 」により化学物質成分の含有量を調べ、年間のPRTR法特定化学物質使用量を把握している。

・2018年度は、化学物質の流出は発生していないが、オイル漏れが1件発生している。オイルタンクのレバーが緩んでいた為に生じたものであり、レバーを締める際に帳簿の記入やリターンスプリングの取り付けにより再発防止を行った。

○ 次年度の取組内容

・全工場で、PRTR法特定特定化学物質の適正な管理及び代替物への切替を継続して行う。

・化学物質の流出による火災などの環境上不適合事態が発生しないように状況把握を継続する。

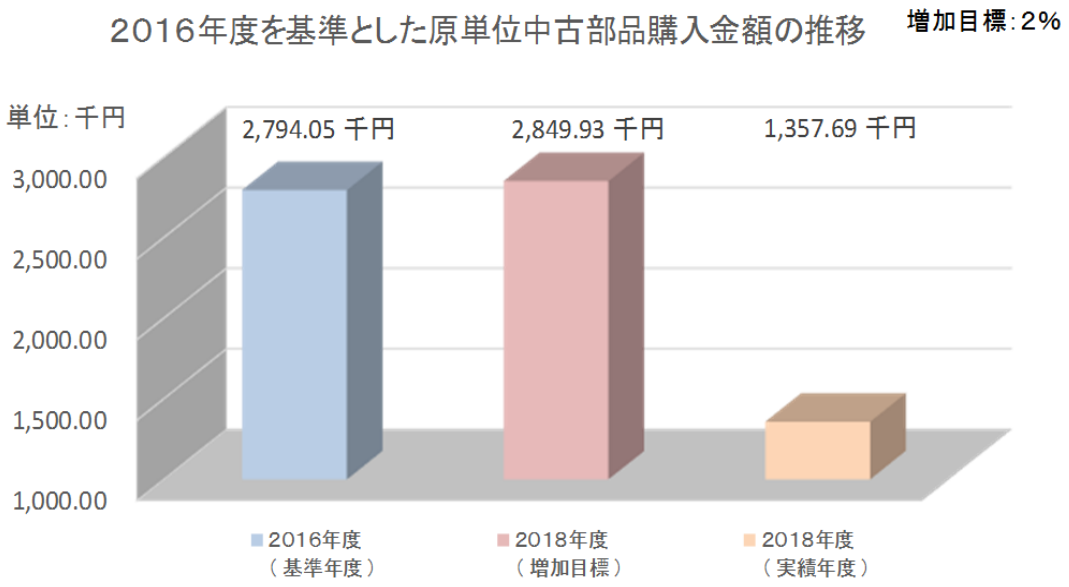
・上記の不適合事態に備え、防災訓練・化学物質の流出を想定した訓練を継続して実施する。

⑦ 2018年度 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

7. グリーン購入の促進

○実際の購入量実績と原単位の推移

中古・再生部品 購入実績	単 位	2016年度 （基準年度）	2018年度 （増加目標）	2018年度 （実績年度）	削減目標 達成率	目標 達成状況
実　　数	円	12,048,903.00	12,289,881.06	7,004,640.00	−2,093.25　%	未　達　成
原　単　位	千円	2,794.05	2,849.93	1,357.69	−2,570.39　%	未　達　成



○ 評価

1. 本年度の自動車中古・再生部品の集計結果は残念ながら原単位・実数ともに大幅減少となりました。
   増減率が基準年度に対し、実数で4割　原単位で5割　減少しており、当社では車検等のタイミングでお客様への呼びかけや提案等を行っておりますが、本年度は成果が出ませんでした。ですが、少しでも多くの中古・再生部品をお客様に納得いただいたうえで使っていただけるよう、根気強く、取組を継続していきます。
2. 少しでも多くの環境負荷を軽減できるよう、事務用品等は環境ラベル認定等製品を優先的に購入している。
3. 古くなった社有車等をクリーンディーゼル車・PHEV車・低排出ガス認定車等の低公害車へ切替することができた。
4. 金額の把握は「 基礎データ記入表 」にて各営業所等で集計を行っている。

○ 次年度の取組内容

- 車検等のタイミングにて、お客様への中古・再生部品の提案や呼びかけの継続。
- 中古部品の購入促進は今後も継続。
- 事務用品等は今後も環境ラベル認定等製品を優先的に購入する。
- 古くなった社有車等は随時クリーンディーゼル車・PHEV車・低排出ガス認定車等の低公害車へ切替える。

⑦ 環境活動計画（2018年度）の取組結果とその評価、次年度の取組内容

８．環境負荷実績の把握

（１）基礎データー入力表に基づき、毎月、環境負荷実績の集計を行う。

○ 評価

・全店舗で毎月きちんと基礎データを入力、事務局への報告が行われている。

・有害性のPRTR法特定化学物質についてもデーターは記録・管理されている。

・事務用品紙類やウエス、リビルト部品（中古部品）の記入が行われている。

○ 次年度の取組内容

・基礎データー入力表の早期入力、集計表作成の早期作成を継続する。

９．環境に配慮した自動車の販売・サービス（整備）の提供等

（１）電気自動車・省エネ車の販売促進

（２）普通・急速充電器の整備促進

・現在、弊社の充電器設置状況は、全店舗に普通充電器を設置しており、急速充電器は青森三菱自動車販売株式会社　青森西バイパス店・青森東店・むつ店・弘前店・五所川原店・八戸下長店・十和田店と青森スズキ自動車販売株式会社　スズキアリーナ八戸駅通に設置されており、対象店舗への急速充電器の設置は完了している。

（３）お客様に、車検・点検等の入庫時にエコドライブ推奨のポイントをチラシ等で案内する。

○ 評価

・本年度の目標　300台　に対し、実績はEV・PHEV車としてアウトランダーPHEVを　67台　クリーンディーゼル車として、デリカD:5を　98台　パジェロを　12台　最終的に　177台　の販売状況となった。 達成率は　59%　である。

・急速充電器の設置状況等は、店頭にチラシ等を掲示する等、一般ユーザーへのアピールをしている。

○ 次年度の取組内容

・現在の販売目標の見直しを実施した結果、240台となった。尚、2019年度　8月をもってパジェロの国内向け仕様の生産終了を受け、2019年　8月よりパジェロを集計台数より控除する。また、2019年　6月13日にエクリプスクロスのクリーンディーゼル車発売が三菱自動車工業株式会社様より発表されており、本目標に加算を行っている。

・今後も、青森県内の充電インフラ整備の推進に努めたい。

⑦ 環境活動計画（2018年度）の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境配慮自動車：電気自動車 / クリーンディーゼル車 / ハイブリッド車 / 低燃費車

※画像は全て 三菱自動車工業株式会社様 と スズキ株式会社様 のホームページより引用しております。

トップページURLは下記の通り

三菱自動車工業株式会社様　https://www.mitsubishi-motors.co.jp/

ス ズ キ 株 式 会 社 様　https://www.suzuki.co.jp/

電気自動車

アウトランダーPHEV

Ｉ － MiEV

ミニキャブ － MiEV

クリーンディーゼル車

デリカD:5（型式:3DA－CV1W）

エクリプスクロス（型式:3DA－GK9W）

ハイブリット車（スズキ車両は該当台数が多いため一部抜粋）

デリカD:2

スペーシア

ワゴンR

低燃費車（三菱・スズキ車両ともに該当台数が多いため一部抜粋）

ミラージュ

EKワゴン

アルト

・低燃費車であるミラージュ・軽自動車のEKシリーズ等の車の運転を通して、エコドライブをしっかりと

お客様への推奨に努める。

⑦ 環境活動計画（2018年度）の取組結果とその評価、次年度の取組内容

10．地域社会への貢献

（1）年1回以上の地域環境保全活動への参加

（2）年1回以上の店舗周辺の清掃もしくは美化活動の実施

○評価・清掃活動他　実施記録

2018年度 実施記録	地域環境保全活動への参加	店舗周辺の清掃・美化活動	評価
本社・青森西バイパス店	2018年 4月29日 NPO団体主催 新城川清掃 参加実績 本社・青森西合同で 5名	2018年 4月18日 店舗・新青森駅付近のゴミ拾い 参加実績 本社・青森西合同で 約25名	◎
弘前店・スズキアリーナ弘前高崎	店舗周辺地域組合等の活動 参加実績 なし	2018年 4月17日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績 所属社員全員	○
五所川原店	店舗周辺地域組合等の活動 参加実績 なし	2018年 4月17日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績 所属社員全員	○
八戸下長店	店舗周辺地域組合等の活動 参加実績 なし	2018年 4月17日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績 20名	○
十和田店	店舗周辺地域組合等の活動 参加実績 なし	2018年 4月18日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績 10名	○
むつ店	店舗周辺地域組合等の活動 参加実績 なし	2018年 4月16日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績 所属社員全員	○
青森東店	店舗周辺地域組合等の活動 参加実績 なし	2018年 4月16日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績 所属社員全員	○
問屋町ボディー工場	地域組合主催清掃活動 2018年 4 ～ 9月実施 問屋町ボディー工場より各1名参加	2018年 4月16日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績　5名	◎
中古車部	店舗周辺地域組合等の活動 参加実績 なし	2018年 4月15日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績　3名	○
スズキアリーナ合浦公園	店舗周辺地域組合等の活動 参加実績 なし	2018年 4月17日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績 所属社員全員	○
スズキアリーナ八戸駅通	店舗周辺地域組合等の活動 参加実績 なし	2018年 4月15日 店舗周辺のゴミ拾い実施 参加実績 13名	○

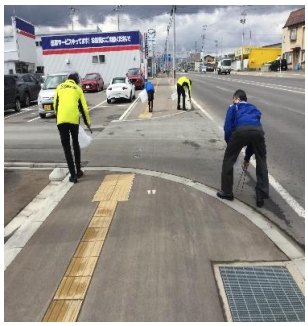
⑦ 環境活動計画（2018年度）の取組結果とその評価、次年度の取組内容

○清掃活動　実施記録－写真

地　域　清　掃　　本社･西バイパス店

地域環境保全活動　　本社･西バイパス店　新城川清掃

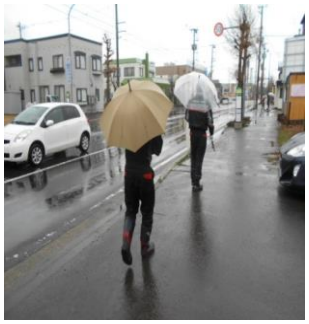
地　域　清　掃　　弘前店・スズキアリーナ弘前高崎



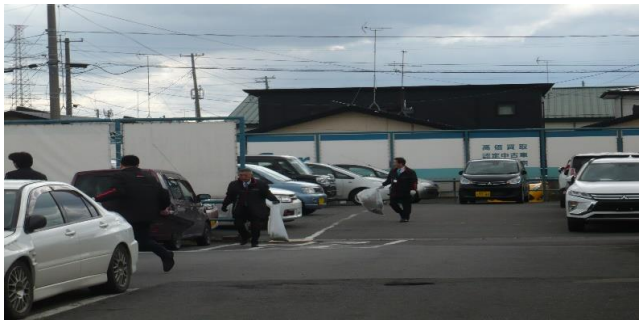
地　域　清　掃　　むつ店

地　域　清　掃　　五所川原店

地　域　清　掃　　青森東店・スズキアリーナ合浦公園



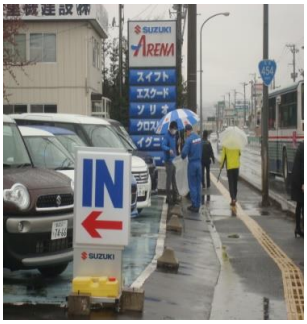
地　域　清　掃　　八戸下長店



地域環境保全活動　　問屋町ボディー工場

地　域　清　掃　　十和田店

地域環境保全活動　　中古車部・スズキアリーナ八戸駅通



⑦ 環境活動計画（2018年度）の取組結果とその評価、次年度の取組内容

11．その他　環境管理の維持向上のために

弊社では、環境管理の維持向上のために、内部監査、社員教育及び緊急事態対応の訓練を実施しております。

実施状況は次表の通りとなります。

○ 評価　　（実施済　適正：○ ／ 実施済　要改善：△ ／ 未実施　不適合：×）

	内部監査実施日	評価	社員教育実施日	評価	緊急事態対応訓練実施日	評価
本社・青森西バイパス店	2018年11月15日	○	2019年1月4日　他　3日	○	2018年6月7日	○
青森東店	2018年11月16日	○	2019年1月17日	○	2019年3月22日	△
問屋町ボディー工場	2018年11月16日	○	2019年1月13日	○	2019年3月12日	△
むつ店	2018年11月22日	○	2019年3月14日	△	2019年3月16日	△
弘前店	2018年11月20日	○	2019年2月16日 他　1日	○	2019年11月20日	○
スズキアリーナ弘前高崎	2018年11月20日	○	2019年3月13日	△	2019年3月16日	△
五所川原店	2018年11月20日	○	2019年3月16日	△	2019年3月25日	△
八戸下長店	2018年11月21日	○	2019年1月20日	○	2019年1月4日	○
中古車部	2018年11月21日	○	八戸駅通と合同	△	八戸駅通と合同	△
十和田店	2018年11月22日	○	2019年3月19日	△	2019年3月19日	△
スズキアリーナ合浦公園	2018年11月16日	○	青森東店と合同	○	青森東店と合同	△
スズキアリーナ八戸駅通	2018年11月21日	○	2019年3月19日	△	2019年3月12日	△

○ 緊急対応訓練実施記録－写真

青森西バイパス店

問屋町ボディー工場

スズキアリーナ弘前高崎

むつ店

中古車部・スズキアリーナ八戸駅通

青森東店

○ 次年度の取組内容

・内部監査を実施し、社内の掲示物の状況、現在の目標の進捗を確認する。

・教育と緊急訓練を実施し、現状の把握と非常事態の発生時に速やかに対応できるように取組を継続する。

・吸着マットやウェス、オイルの保管容器等の損傷の有無を随時確認し、非常事態に対応できないことがないように取組を継続する。

・教育と訓練を繁忙期に行っている店舗があるので、なるべく繁忙期を避け、内容をしっかり把握するよう周知する。

⑧環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、違反・訴訟等の有無

・環境関連法規等の遵守状況については、毎年定期的に法令一覧表の見直し、遵守状況のチェックを行っております。

・環境関連法規については、自らその遵守状況をチェックしたところ違反はありません。また、関係当局よりの違反等の指摘、訴訟は過去3年間ありません。

・近隣住民からの苦情は、2011年度は1件ありましたが、改善策を提示し、解決済みです。また、2018年度は騒音に関する苦情が1件報告されていますが、原因解明と対策を行い、対処を行っております。

・環境関連法規等の遵守状況の確認表（全社総括）については次表のとおりとなります。

環境関連法規等の遵守状況確認表　2018年度版

環境関連法規遵守項目	測定・監視項目	判定基準	測定・監視頻度	測定場所	確認結果	
○水質汚濁防止	①排水の水質測定	条例に基づく排水規制	1回／年	排水出口（測定機関）	2018年度　再検査を含め実施済 弘前店○、むつ店○、十和田店○	
		排水基準の適用			－	8店
	②門型洗車機など、特定施設の届出	「特定施設設置届出書」の確認	1回／年	保管部門	○	3店舗　届出済
	③油水分離槽の点検・保守	点検・清掃の実施	1回／6ヶ月	油水分離槽	○	合浦公園を除く全店
	④排水溝の保守	清掃の実施	1回／6ヶ月	排水溝	○	全店
	⑤浄化槽の点検・保守	点検・清掃の実施	1回／年	浄化槽	○5店、定期的に実施している	
	⑥廃油タンク周りの油漏れ	タンク亀裂・油垂れ等のチェック	1回／月	廃油タンク周り	○	亀裂、油垂れ無
○大気汚染防止	①ボイラーの届出	「ばい煙発生施設届出書」の確認	1回／年	保管部門	○	青森西バイパス店
○騒音・振動防止	①エアコンプレッサー、エアコン室外機の騒音測定	昼;60dB以下　夜間;50dB以下	1回／年	敷地境界	20年実施時　西バイ店・八戸下長店 整備団地実施済、その後異常なし 8店測定なし、非監視項目苦情1件	
	②エアコンプレッサー等の届出	「特定施設設置届出書」の確認	1回／年	保管部門	○	該当3店届出済み
○廃棄物処理	①産業廃棄物の適正保管	保管場所の表示・保管状況	1回／月	廃棄物保管場	○	合浦公園を除く全店
	②産業廃棄物マニフェストの交付・回収	E2・D票:90日以内　E票:180日以内	1回／月	交付部門	○	合浦公園を除く全店
	③委託契約書の締結・更新	「産業廃棄物委託契約書」の確認	1回／年	保管部門	○	合浦公園を除く全店
	④実績の報告	廃棄物管理票交付状況等報告	1回／年	保管部門	○	**毎年6月　全店報告済み**
○使用済自動車処理	①電子マニフェストの移動報告	引取報告:使用済車引取り後3日以内 引渡報告:引取報告後30日以内かつ使用済車引渡し後3日以内	1回／月	移動報告実施部門	○	問屋町除く全店
	②引取業・フロン回収業の届出	登録の更新	1回／5年	保管部門	○	全店
○危険物管理（危険物第4類）	①危険物の適正貯蔵	危険物取扱の表示、貯蔵量のチェック	1回／月	貯油庫	○	全店
	②危険物貯蔵の届出	「届出済」の確認	1回／年	保管部門		
○化学物質管理（PRTR法）	①化学物質使用量	ｴﾁﾚﾝｸﾞﾘｺｰﾙ使用量	1回／月	ｻｰﾋﾞｽ工場	○	把握している。
		ﾄﾙｴﾝ・ｷｼﾚﾝ使用量	1回／月	塗装施設	○	把握している。
	②特定化学物質の排出量・移動量の届出	取扱量:1t以上／年	1回／年	担当部門	－	全店該当しない
○フロン排出抑制	①定格出力7.5kw以上のエアコン室外機	定期点検の実施	1回／年	保管部門	○	八戸下長店
○地盤沈下防止（条例）	①地下水採取の規制	「地下水採取量の測定及び報告」の確認	1回／年	担当部門	○	青森西バイ店報告済み

［確認結果］ ○:適合　△:一部不適合　×:不適合　－:該当しない

○　評価

是正評価項目－1　／　水質汚濁防止

・上記、環境関連法規等の遵守状況確認表の通り、見直し・チェックが適正に行われている。しかし本年度は上記の表には含まれていないが、工場内部に配備されているオイルタンクの取り出しロレバーが緩んでいたことによりオイルが漏れていたとの事案があり、対処を行っている。

・排水の測定に関しては、1店舗が自治体の基準値を超えているとの報告を受け、速やかに清掃と汚泥処理の実施を行った。
水質再検査の結果では基準数値の範囲に収まっている。調査の結果、定期清掃は実施されていたが、清掃漏れの箇所があったことが確認されている

是正評価項目－2　／　騒音・振動防止

・近所の方から夜に音がうるさいですとのご指摘を1件頂いている。調査の結果、営業時間終了後も洗車後の水気を払うためにエアーガンを使用していが確認されており、担当者が速やかに営業時間後の水気を取る業務はふき取りのみにするように周知している。

適正評価項目－1　／　大気汚染防止・廃棄物処理・使用済自動車処理・危険物管理・化学物質管理・フロン排出抑制・地盤沈下防止（条例）

・いずれの項目も定期に点検・報告が行われており、異常のない事を確認している。

○　次年度の取組内容

・法規に関して、逸脱する行為は発生しなかったが、例年発生していない漏水・油漏れ等、是正事案が見受けられており、各拠点の活動に応じた点検の実施等、ここまでの取組を継続することはもちろんですが、状況を確認しながら推進していきたい。

⑨ 代表者による全体評価の結果と見直し

青森三菱自動車販売株式会社及び青森スズキ自動車販売株式会社での環境への取組を推進してきましたが、各項目ごとの評価結果及び指示事項は、次表のとおりです。

評価項目	評価結果	指示事項(見直し)
1. 環境方針	是正事項なし	2017年度版に移行するが、現行の方針を継続する
2. 環境目標	電力は実数・原単位ともに大幅に削減できている 化石燃料は原単位・実数ともに大幅削減できているが、社有車で使用したガソリン・軽油の使用量は増加した。また、社内で使用する灯油等の使用量を大幅に抑えることができた。 漏水案件が2件発生しているが、内1件はストップノズルの破損によるもので、対応として業務終了前等に点検を確実に行うように周知していきたい。 廃棄物は大幅増加となっているが、随時処理の汚泥が2018年度より定期処理へと変わったため増加している 二酸化炭素排出量は全体的に削減できたがガソリンの部分が増加しており、エコドライブを徹底して削減していきたい。 特定化学物質は全体的に削減できているが、増加している物質は目標年度に対して内容量16kgの製品を購入していたことが要因である。 中古部品は目標未達となったが、今後もお客様に対し、納得して使っていただけるよう取り組みたい	本年度は水の漏水・ストップノズルが壊れたために発生した水排出量の増加、オイル漏れ等、未然に防ぐことができる事案が複数確認されており、中でもオイル漏れは敷地外に漏れた場合や火災の発生を想定すると見過ごすことができない事案であり、会社の目指すべき方向性と店舗の動向・意識のギャップが生じることがないように目的をもって内部監査の実施や店舗への連絡等を実施する。 社内で使用する化石燃料(灯油・LPガス)等は削減できており、中でも10月以降の冬期間においては全社合計の化石燃料使用量の実数削減目標を全て達成し、それに伴い光熱費関連支出が減少している。これは歴史的な暖冬・小雪の影響によるもので、削減できたからと油断しないように社員の意識レベルを引締める取組をお願いします。 クリーンエネルギー車の台数を2019年度では240台の販売目標とする。 地域社会への貢献として、周辺地域の清掃やスマートムーブ通勤月間等への参加を実施、今後も継続する。 削減目標に対しては有効な取り組みを続けることができている一方で、ストップノズルの破損による水排出量の増加事案では見える箇所の点検が弱かったと感じられる。備品を用いて閉め忘れ対策を行うところまではよかったが、破損した状態で使用していては取組が無駄になってしまうので今後発生しないように周知していきたい。
3. 環境活動計画	目標事項への取組は本年度も継続できている クリーンカーの販売やエコ整備の推進を実施し、本年度も社外に対して削減を実行できている 本年度もスマートムーブ通勤月間に地域の環境保全活動として参加した	削減事項は変更箇所を除けば概ね削減傾向にあり活動計画への取り組みは本年度も継続できているが、漏水等の無駄な排出やオイル漏れの発生の事態がなければ資源の無駄な排出がなかったのではないかと考えられる。 現在　店舗でストップノズル等の見える箇所の設備点検を店舗の任意のタイミングで実施してるが、環境活動計画に含まれておらず、点検状況が明確ではないため、活動計画に含めることで点検状態を明確化し、設備の老朽化等から未然に防ぐことができるようにするために、取り組みの見直しを検討する。
4. 実施体制	人事異動により、一部拠点の推進員が変更となっている。	変更となって新たに推進員となった社員と連絡をとり、不明な点を減らしていくことを継続していく。
5. その他	環境関連の法律・法令に基づき、必要とされる測定・点検の実施を行った。	今後も法令の変更などに対応し、法令順守を継続していくこと。

以上